

MHAM日本成長株ファンド<DC年金>

1. 定性評価・コメント

当ファンドではファミリーファンド方式が採られており、実質的な運用は「MHAM日本成長株マザーファンド」で行われていますので、以下の運用プロセス、運用体制は主として同マザーファンドを評価対象とします。

総合評価	
Aa	「運用方針」は具体的かつ明確です。
	「運用プロセス」は判断材料・基準が明確であり、運用の継続性は確保されています。ただし、長期的な運用実績が良好とは言えず、プロセスの有効性が確認できません。
	「運用体制」は運用責任者の経験、担当ファンドへの専念度合い、運用メンバーの安定性・バックアップ体制等を含めて問題はありません。2023年12月運用責任者が交代しました。新責任者は当ファンドのプロセスを熟知しており、運用に支障はありません。ただし、今後の運用実績の推移を見極める必要があります。
	「組織・管理体制」は運用と管理が明確に分離され、牽制機能が十分に働く体制となっています。「ディスクロージャー」は評価できる内容となっています。「企業基盤」に関して、当社は強固な経営基盤を有し、財務・業務基盤も極めて安定しています。
	運用責任者のトラックレコードが十分とは言えないことから、2023年9月基準より総合レイティングをAa、運用体制レイティングを☆☆に引き下げました。

運用方針	
★★★★	わが国の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、参考指数としている東証株価指数（TOPIX、配当なし）を中長期的に上回る投資成果を目指すファンドです。対外的には明示していませんが、参考指数に対する目標超過収益率は年率8.0％程度、許容アクティブリスクは同10.0％～17.0％程度を想定しています。超過収益の源泉とその割合は銘柄選択100％としています。
	競争力の優位性と利益の成長性に優れた銘柄に厳選し企業の規模に係らず高い成長性に着目した銘柄選択を行うため、中小型株の組み入れが多くなる傾向があります。このため、短期的には参考指数との乖離が大きくなる場合があります。

運用プロセス	
★★	まず全上場銘柄のなかから、過去3年間の売上高増加率、経常利益増加率、経常利益率の3指標の同業種平均との比較、および売買回転率に基づいて約600の調査対象銘柄を選定します。つぎに、会社訪問等による調査・分析を行い、①中期的成長性、収益力等4つの定量項目と、②業界内・バリューチェーン内での競争優位性、マネジメントの質等の5つの定性項目を評価するとともに、主たる成長要因ごとに分類した成長カテゴリーのいずれに帰属するかを判断し、投資対象銘柄リストを作成します。アナリストは、そのなかで競争優位性に係る項目をもっとも重視して、相対的な優位性の順位付けを行い、投資対象候補となる約300銘柄を選びます。
	ファンドマネジャーは、アナリストとの意見交換や投資対象候補企業の経営陣との面談等により、アナリストの推奨度合いを自ら吟味します。同時に、アナリストの予想利益に基づく株価のバリュエーションを確認し、銘柄が特定分野に集中することを避けるため成長カテゴリーを分散して、組入れ銘柄とその比率を決定します。
	運用プロセスは運用方針との整合性が確認でき妥当性はあります。また、判断材料・基準は明確であり、組織的な意思決定も図られていることから運用の継続性は確保されています。ただし、長期的な運用実績が良好とは言えず、プロセスの有効性が確認できません。

運用体制	
★★	運用責任者は十分な国内株式アクティブの運用経験を有し、担当ファンド数も少なく運用に専念できる環境にあります。
	また、同じ運用チーム内には豊富な運用経験を有するメンバーが在籍しており、運用責任者の不在時、交代時におけるバックアップ体制にも問題はありません。
	2023年12月運用責任者が交代しました。新責任者は前責任者と運用チームメンバーとして協働し当ファンドのプロセスを熟知していることから、運用に支障はありません。ただし、今後の運用実績の推移を見極める必要があります。
	なお、運用責任者のトラックレコードが十分とは言えないことから、2023年9月末基準より運用体制レイティングを☆☆に引き下げました。

組織・管理体制（ガバナンス）	
★★★★	コンプライアンスは所管部署でチェックされます。結果は所定の会議に報告され、違反事項は同会議で審議されます。リスク管理項目は所管部署でモニターされます。規制に抵触した場合は運用部門に是正要請が行われ、結果は所定の会議に報告されます。パフォーマンスは所管部署が月次で評価し、結果を毎月所定の会議に報告の上、運用部門にフィードバックします。改善を要する場合には、同会議から改善要請が行われます。
	所管部署はいずれも明確で、管理項目、チェック・報告頻度は、おおむね十分です。売買執行部門と運用部門は分離され、それらを管理する各部門も両部門から独立しています。他の独立部門による監査も行われており、牽制機能が働いています。

ディスクロージャー	
★★★★	目論見書には、参考指数、投資対象、投資比率、参考指数を上回ることを目標とする旨などの運用方針が記載されています。加えて運用プロセスに関する具体的かつわかりやすい説明もあり、十分な内容と言えます。
	運用報告書には、当ファンドおよび参考指数の収益率、具体的な投資行動とそれが超過収益へ与えた影響について説明があり、充実した内容です。月報には、当ファンドと参考指数の収益率比較、ポートフォリオの概要や投資行動が記載されており、十分な内容と言えます。

企業基盤	
★★★★	当社は議決権保有比率でみずほフィナンシャルグループが51％、第一生命ホールディングスが49％（経済的持分はみずほFGが70％、第一生命HDが30％）出資する資産運用会社として強固な経営基盤を有しています。また、極めて安定した財務基盤、業務基盤のもとに規律のある経営が行われています。

運用実績	
★	直近5年間（2019年4月～2024年3月）の累積超過収益率は－47.37％（年率－9.47％）と、運用実績はベンチマークを下回っており、同期間のインフォメーションレシオは－0.73となっています。
	また、直近6か月（2023年10月～2024年3月）の累積超過収益率も－15.34％とベンチマークを下回っています。パリュエンスホールディングス、アトラエ、JMDCなどがマイナスに影響しました。

(注1)運用実績の分析は運用管理費用控除後ベースで実施しています。
(注2)運用実績の評価にあたって、弊社では東証株価指数（TOPIX、配当込み）をベンチマークとして独自に分析を行いました。

●本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・プレインズ株式会社（以下、MAB）に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
●本レポートは、投資信託委託業者等から入手した情報およびMABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の真実性・正確性をMABにて調査・確認したものではありません。
●MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
●本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
●本レポートは、情報提供を目的としたものであり、本投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
●投資信託はリスクを含む商品であり、したがって元本保証はありません。

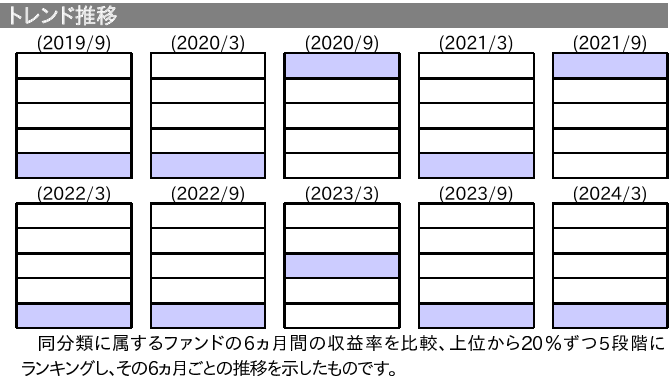
2. ファンド概要・運用実績等

ファンドの概要			
運用	アセットマネジメントOne		
投資助言/一任	—		
MAB分類	国内株式（アクティブ）		
設定日	2001年11月19日	純資産額	302億円
基準価額	31,546円	運用管理費用（注）	1.7050％
分配金	直近1年：0円	設定来累計：0円	

(注)運用管理費用は、年率、税込み（10％）表示です。

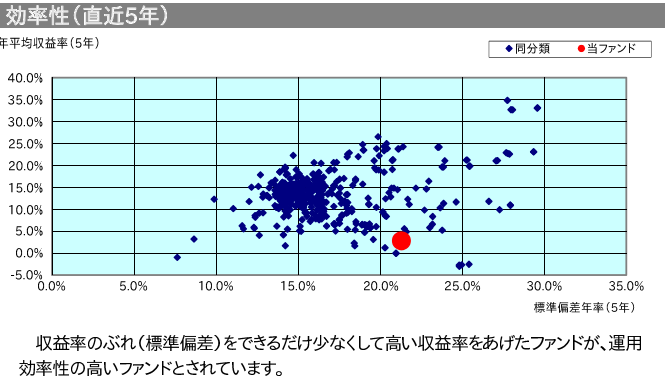
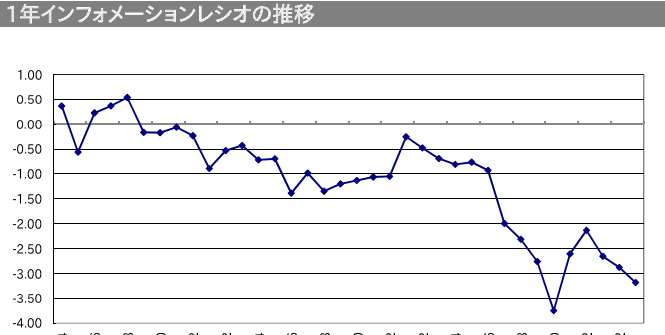
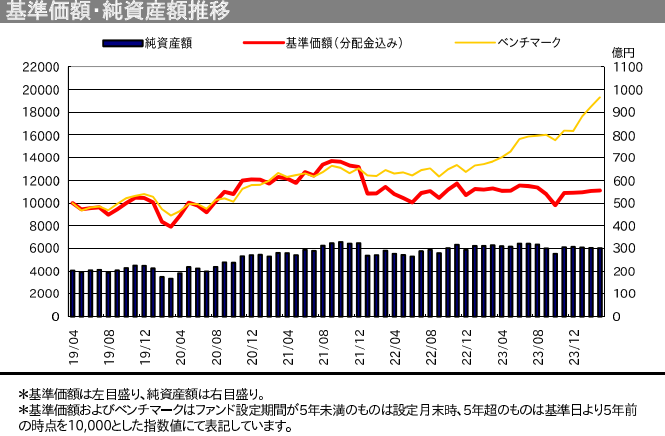


ファンドの収益率					
	当ファンド (%)	分類平均 (%)	ランキング 当ファンド	分類内ファンド数	ベンチマーク (%)
3か月	1.82	16.46	553	563	18.14
6か月	3.11	18.54	547	558	20.55
1年	-1.55	35.99	535	543	41.34
3年	-9.64	43.33	501	515	52.53
5年	14.83	90.91	479	490	96.19



上位組入れ業種			
	(単位：％)		
	業種名	組入れ比率	ベンチマークとの差
1	情報・通信業	25.23	17.97
2	サービス業	19.94	15.46
3	電気機器	17.69	0.30
4	化学	6.26	0.55
5	機械	6.03	0.42
6	精密機器	4.92	2.71
7	ガラス・土石製品	3.73	3.04
8	不動産業	3.02	0.89
9	卸売業	1.87	-5.53
10	保険業	1.63	-1.09

＊組入れ比率は対純資産総額比です（ファミリーファンド方式の場合は対マザーファンド純資産総額比）。



上位組入れ銘柄				(単位：％)
	銘柄名	業種	組入れ比率	ベンチマークとの差
1	M&A総研ホールディングス	サービス業	2.73	2.72
2	フィックスターズ	情報・通信業	2.18	2.18
3	東京精密	精密機器	2.10	2.03
4	SREホールディングス	不動産業	2.10	2.09
5	ジャパンマテリアル	サービス業	2.00	1.98
6	東洋合成工業	化学	1.96	1.96
7	ルネサスエレクトロニクス	電気機器	1.96	1.53
8	エス・エム・エス	サービス業	1.77	1.75
9	LITALICO	サービス業	1.75	1.75
10	マネーフォワード	情報・通信業	1.71	1.67

*組入れ比率は対純資産総額比です(ファミリーファンド方式の場合は対マザーファンド純資産総額比)。

●本レポートは、コンサルティングサービス契約に基づきMABが報酬を得て作成し、使用許諾を与えたものです。
●本レポート中の運用実績の分析は、原則として運用管理費用控除後、配当込みに基づいて実施しています。ベンチマーク算出方法（配当・為替）の違い等から、投資信託委託業者等の分析とは異なる場合があります。
●(注2) 総収益率のデータはMAB独自の計算によるものであり、ファンドのベンチマーク収益率の差とは一致しない場合があります。
●2. ファンド概要・運用実績等の数値は、基準日当日のデータを使用して算出するほか、基準日前日のデータを使用して算出する場合もあります。
●東証株価指数（TOPIX、配当込み）の指数値及び東証株価指数（TOPIX、配当込み）に係る権限又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。